

# 第8回定期大会ニュース

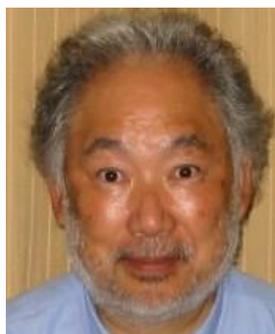
2023年9月24日 JMITU通信産業本部

JMITU通信産業本部第8回定期大会は9月10日、オンラインで開かれました。代議員・特別代議員の発言を紹介します。



宇佐美俊一委員長を先頭に「団結ガンバロウ」を行う大会代議員と出席者

## 北海道分会 岩本 信一 特別代議員



今年のストは昨年と同じくフレックス勤務となり、ストの賃金カットはなかった。今後も労働者のスト権のため交渉していく。道労連・旭労連・OBの支援を得て全道4ビルでビラ400枚配布した。今年から「ジョブ型雇用」の導入でほとんどの手当が廃止になる。職場では今後の不安と不満がでている。退職者の補充なしで職場では少ない人数となっており、仕事が増えより忙しくなっている。NTTが直で業務をすることが大事だ。引き続き安心して働けるような職場をめざし頑張っていきたい。

東北支部 内城 孝雄 代議員



春闘チラシ配布、軍拡反対リーフ配布を八戸ビルで地域労連やOB組合員等の力を借り配布した。昨年7月、NTT-F社とNTT-AE（アノードエナジー）社との会社業務の統廃合により、社員がAE社へ出向している。無人局の電力業務の一部がアウトソーシングされ、その分の稼働が自社資産等の設計業務へ移行している。職場労働者の不利益にならないよう対話を深め訴えていきます。

東京支部 富田 啓二 代議員



東京支部では、毎月2回、全員参加で拡大執行委員会と全組合員会議をオンラインで行っています。東京支部機関紙は隔月で発行。「軍拡パンフ」を6ビル520枚配布。23春闘の取組は、返信用封筒付き春闘アンケートを本部機関紙に折込み、300枚配布。「23春闘学習決起集会」を行い、3月9日のストライキは、13時からの時限ストをFSビル前で本部とともに取り組みました。

神奈川分会 板橋 廣吉 特別代議員



3・9ストライキは、昨年に引き続き川崎ビル門前で5団体12名の支援を受け19名でストライキ連帯宣伝行動と集会に取り組みました。出勤する労働者から「毎年この光景を見ると春が来たなと思う」と声をかけられました。春闘アンケートは、門前4カ所と社宅2カ所に用紙を配布しました。国民平和大行進には5日間参加し静岡に引き継ぎました。

静岡支部 田中 利政 代議員



支部は、独自課題として世界一危険な浜岡原発再稼働反対の運動に取り組んでいます。またリニア新幹線の南アルプストンネル建設に伴う大井川の水量減少する環境破壊問題があり県労連とともに反対運動に取り組んでいます。今回の特別決議にある「NTT政府株完全売却・NTT法廃止」検討に断固反対する世論を広げるため県労連の定期大会でも発言していきます。

岐阜支部 中村 健一 代議員



今年4月からグループ共通IT決裁システムがすべてのグループ会社で導入された。会社からは取り扱いに関する基本的部のみの説明だった。難しくすぐにはできない社員も出てきている。「わからない者は去れ」と言われているようだ、と感じる社員もいる。

「岸田軍拡反対リーフ」を2ビルで配布した。コロナが2類から5類になり、自己判断での出社となった。会社は責任を持って対処すべきだ。

京都支部 高橋 幸雄 代議員



京都分会では現役組合員が居なくなり組合事務所を会社に返した。今後OB2人での活動となるため工夫が必要。京都では所外の工事をすべて外注化していたが技術継承の問題などで京都市内は内製化に切り替えている。その関係で若い労働者が苦勞している。NTT法の見直しの問題は12月末までに政府の結論が出されるので早急に反対の運動をすすめていくべき。

大阪支部 中村 博之 代議員



春闘アンケートには昨年の3倍の回答があった。切実な「声」を支部機関紙で知らせてきた。支部会議では職場の状況を話し合うようにしている。多くの職場で人員が減っている。130人を超えていた職場が現在は100人余りに。業務量は減らずメンタル不全などの病休者も多い。賃金の誤支給などが続いている。支部独自の労働相談の受付体制や宣伝方法を工夫して取り組みたい。

兵庫支部 増田 二郎 代議員



3・9ストライキ行動は、15団体の支援を得て総勢31名で会社の妨害もなく貫徹した。FTの非正規労働者が7月から菊水ビルから兵庫ビルへ移動を言われ悩んでいたが組合交渉団に相談し、窓口交渉で7月の移動の理由にならないと取り下げさせた。BS交渉、「交換留学」は2時間かけて八尾まで行っても研修にもなってないと会社を追及。現在は止まっている。

兵庫支部 南山 隆史 代議員



兵庫の新入組合員がなぜ通信労組に入ったかという点、支部ニュース、パンフにあった本部の電話番号に労働相談し、兵庫支部に転送されてきた。

8カ月間その人と勉強会をやってきたが、職場の問題でストレスがたまり、もう我慢できないと兵庫労連とも相談し、組合に加入することを決意した。機関紙はOBの力を借りて苦勞して作っている。これからも頑張りたい。

四国分会 仙波 秋夫 特別代議員



23春闘では高松の香川支店で組合員一人がストライキに入り、門前で香川労連の方やOBの支援を受けてスト集会を行いました。春闘アンケートは返信用封筒を付けて門前7カ所で配布し、60通の返信が有りWebで四国から本部に29通の返信があったそうです。機関紙「おいでんか」の門前配布は7カ所で約1000枚配布しています。パズルの応募者は月平均8人います。

宮崎 正光 特別執行員委員



7月に雇用契約書の見直しで兵庫の非正規組合員に会社が出してきた雇用通知書兼雇用更新通知書には、基本は受付業務だがそれ以外に人事、総務、経理などいろいろ書いてあった。来年4月に労働契約法の改正が行われ、勤務場所はもとより、仕事内容（将来変わる業務範囲）を明示する義務となっている。労働者は何でもやらなくてはいけないのかと思ってしまう。組合として法改正を学習し、来年4月前の雇用契約を結ぶときに注意していかなければならない。

重見 幸春 特別執行員委員



NTTは、主要各社の社員を対象に「ジョブ型人事・処遇制度」を導入し、絶対評価を組み込むなどして報われる制度と言っているが一部の高評価者に限られるもので、一般労働者には評価の拡大と低賃金を押し付ける制度である。専門分化に伴う雇用の流動化にも留意する必要がある。

西日本では、アクトProCX社の非正規雇用にも適用されているが、年休取得を「インセンティブ」評価の対象とするなど、低賃金と格差が特徴の最悪の制度となっている。職場での実態把握が大切である。